

第106回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2018年5月14日(月) 14時～17時

兼題「菖蒲湯」

- 川井素山 ○行く春の空を捕らへる棚田かな
老鶯や日に一客の隠れ宿
検番の灯明うすき夏日かな
菖蒲湯や世事うときまま老ひ重ね
- 保井寶正 ○夏菊や押し花帳の縦を占め
個展の繪薫風の中とどきけり
夏めくや朝と夕の万歩計
菖蒲湯や父の愛した檜風呂
- 佐久間喬 ○菖蒲湯の由来問ふ子と長湯せり
朝風呂の窓にひかり合ふ庭若葉
大欠伸菖蒲湯浸り手足伸ぶ
山小屋や夕ぐれて映ゆミツバツツジ
- 後藤克彦 ○水満ちて蛙のジャズに聞きいるる
蛙啼く声もかき消す通夜の経
ギネス入り数の多さの鯉幟(館林にて)
菖蒲持ち湯の中戦場五月かな
- 丸山酔宵子 ○菖蒲湯や桶音響く一番湯
ロンジーにはだしでむかうパゴダかな
月涼しパゴダに祈る^{みたま}御霊かな
ゴシックの天井響くジョッキたち
- 菊地崇之 ○柏餅朝日まぶしや医師恐し
スーパーに盛期はまだか初鯉
五月晴句会大丸富士と鷹
銀ぶらや菖蒲湯浴びたしハニーへ
- 吉田啓悟 ○朝日さし柿若葉艶いちだんと
萌黄なる新茶もとめて天現寺
行く春やふらここ風にさらされる
菖蒲湯やカーンカーンとひびく桶

- 山本草風 ○菖蒲湯に長く浸りて老い流す
老いてなほ乙女と出会ひ業平忌
古書開き紙魚と一緒にの文字遊び
早乙女が腰曲げ一人遠景色
- 佐伯兵庫 ○別の駅帰るふたりや春寒し
春眠や怠惰しばらく居候
孫達に清く生きろと菖蒲湯に
里山にドローンと蜂仲間かな
- 佐久間たか子 ○^{あかり}灯火消し^か香の^し染みるまで菖蒲湯に
ゆったりと束ねし菖蒲舟のごと
手作りの餡はみ出して柏餅
若葉雨念珠にポツリ雫かな
- 渡辺鯨波 ○公園に老人あふれ子供の日
ティファニーと一緒に浸る菖蒲風呂
麦秋や日比谷にもどる映画街
聖五月ジョンレノン来し銀座カフェ
- 金森純女 ○女滝ゆえゆるゆると岩穿ちけり
菖蒲湯や自分のために立ててをり
山藤のいま盛りなり甲斐の国
われさきに親に駆け寄る軽鴨の子や
- 澁谷瑠璃 ○夜光虫昨日落としたイヤリング
遠雷に魔法陣描き避難する
プールサイドに戯られぬ塩素水
菖蒲湯や女も勝負事ありて
- 原 晶如 ○ナビにない道を走りて麦の秋
きびきびと指呼の車掌や夏来る
菖蒲湯のみどり風颯々吹き抜けり
「運命」の怒涛の和音新樹光
- 永井正孝 ○塀越しに己を主張白つつじ
山門に祭り提灯人集ふ
夏風邪や憂ひまつわる曇り空
菖蒲湯や父子ともども湯に中たる
- 青葉ひかる ○どん底に落し入れられ氷雨降る
菖蒲湯に願いを込める母なれば
夏の月愛伝え給え異国まで
誤解曲解悪意に刺されついでかな

次回「萩句会」

日時 2018年6月11日(月) 14時～17時

場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『徽』一句

当季雑詠 三句